

大阪・大坂城下町跡

おおさかじょうかまち

1 所在地 大阪市中央区高麗橋三丁目

2 調査期間 OJ〇四―一次調査 二〇〇五年(平17)三月

四月

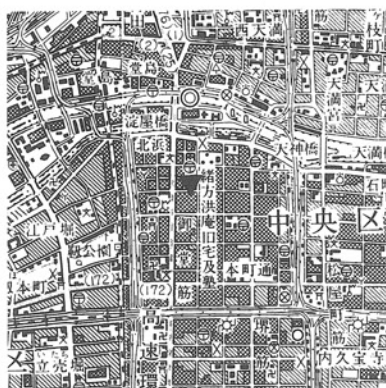
3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会

4 調査担当者 宮本康治・鳥居信子

5 遺跡の種類 城下町跡

6 遺跡の年代 江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪西北部・大阪東北部)

調査地は上町台地・大坂城の西側、豊臣期及び徳川期に整備され

た城下町である船場の一角にあり、北は高麗橋通、東は井池筋に面する。調査は、敷地南寄りに東西に長い調査区を設け、二回に分けて実施した。調査面積は計一九二㎡である。

調査地点における屋敷地としての利用は豊臣期ある

いは徳川期初期に始まり、その後盛土による造成が繰り返され、屋敷地として継続的に利用されていた。多数ある整地面のうち、第九層上面とした一七世紀の遺構面について平面的な調査を行なった。

その結果、調査区内に南北方向に延びる三区画分の屋敷地を確認した。敷地境は南北方向の石垣状の施設によって区画されていた。この石垣状施設は中央の敷地に面を向けて築かれており、中央が一段低く、東西両側の敷地が高くなっていた。中央の敷地は幅一三m(六・五間か)で、東・西については調査区外に延びており幅は不明である。東側の屋敷地では礎石建物や溝が検出され、西側の屋敷地でも石列及び盛土の状況が確認された。

中央の屋敷地の一段低い地点に大量の廃棄物層SX九〇三があり、敷地一区画分が廃棄物の場所として利用されていた。SX九〇三からは、紹介する木簡をはじめ、漆器など各種の良好な資料を含む木製品類、陶磁器・瓦・金属製品・石製品、食物残滓など、多様で大量の遺物が出土している。廃棄物の堆積は南側ほど低く、廃棄が北から行なわれたことが推測された。また、廃棄後に土砂で覆った状況や、水成堆積が廃棄物の間に見られ、部分的に水つきの状態であったことも観察された。ただし遺構や出土遺物の状況からみて、廃棄はそれほど長期間にはわたっていないようであり、その後に厚い盛土で造成され、通常の屋敷地へと変化していた。なお、こうした大規模な廃棄場所は大阪城下町跡の他の地点でも確認されている。

木簡はSX九〇三から少なくとも三三点出土した。ここではそのうち、処理・整理が進んだ一〇点を紹介する。

8 木簡の釈文・内容

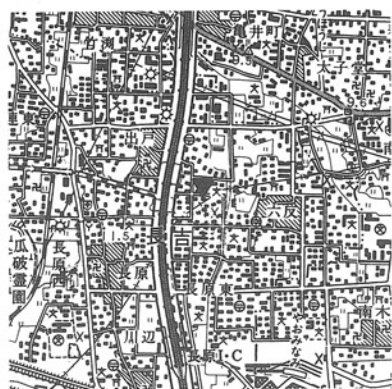
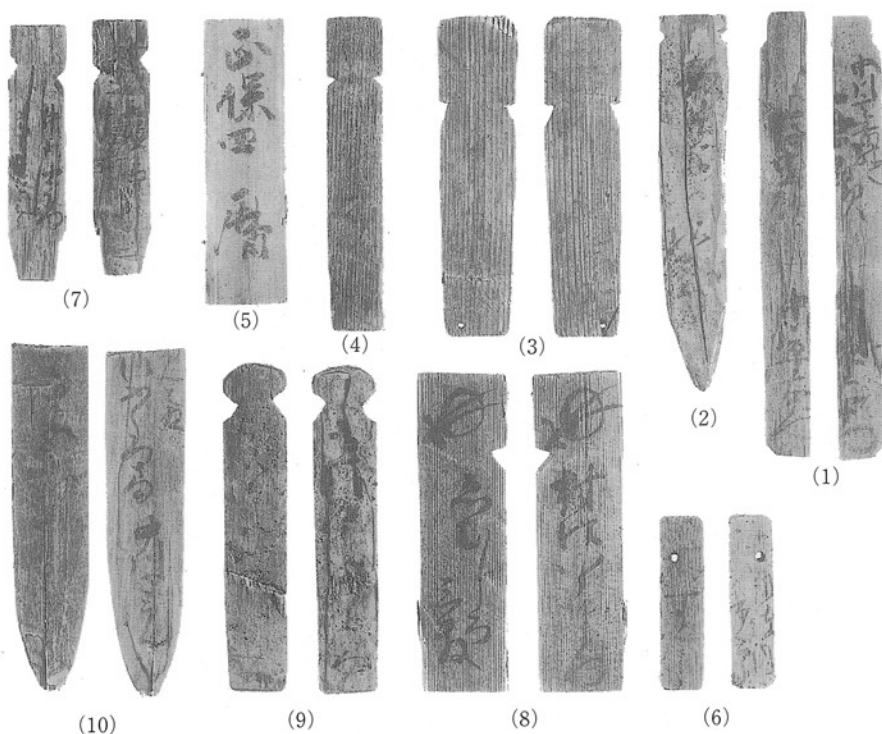
- | | | | |
|-----|------------------------------------|------------|-----|
| (1) | ・「 \angle 中川玄市
□宝様
中川□右衛門」 | 196×(21)×2 | 032 |
| (2) | ・「 \angle □宝様
中川□右衛門」 | 165×30×5 | 033 |
| (3) | ・「 \angle □野
次右衛門」 | 140×34×8 | 032 |
| (4) | ・「 \angle □新□
」 | 138×24×8 | 032 |
| (5) | ・「 \angle □
」 | 152×38×1 | 011 |
| (6) | ・「○□□門
市三郎」 | 77×19×7 | 011 |
| (7) | ・「○
す」 | | |
| | ・「 \angle 西浜
中村□□
」 | | |
| | ・「 \angle 中村忠右衛門
ま□□三右衛門」 | 112×25×3 | 032 |

- | | | | |
|------|---------------------------------|----------|-----|
| (8) | ・「 \angle (目印)村林□右衛門」
[惠カ] | 140×39×6 | 032 |
| | ・「 \angle (目印)□むしろ
三敷」 | | |
| (9) | ・「 \angle □
市右衛門□□衛門」 | 144×27×6 | 032 |
| (10) | ・「□は殿
いふた□□ 中川さん」 | 153×35×3 | 051 |
| | ・「□十五」 | | |

以上のものの以外に、商品名を示すと思われるもの(米・いか)、屋号を示すもの(伊丹屋)、人名を表すもの(いけたや九郎兵衛・今泉□衛門)などがある。木簡には(5)の正保四年(一六四七)をはじめとして年紀のあるものが含まれ、本調査地の歴史的位置付け、そして共に伴った各種遺物の検討に重要な手掛りとなるものと思われる。なお、(10)の上端は二次的に切断されている。

9 関係文献

(財)大阪市文化財協会『積水ハウス株式会社による建設工事に伴う大坂城下町跡発掘調査(〇一〇四一)報告書』(二〇〇五年)
(宮本康治〈大阪歴史博物館〉・鳥居信子)



(大阪東南部)

大阪・長原遺跡

- 1 所在地 大阪市平野区長吉出戸八丁目
- 2 調査期間 N G O 四一三次調査 二〇〇四年(平16) 九月、
二〇〇五年三月
- 3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 杉本厚典
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代、近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は長原遺跡東北部に位置する。

縄文時代中期頃の河成堆積によって形成された、南東から北西へ延びる出戸自然堤防の北東縁にあり、北ないし北東に向かって下がる斜面部に立地する。

調査地は弥生時代には居住域であったが、古墳時代後期から奈良時代にかけて、出戸自然堤防の縁辺に沿っ